

オルネツライアとマ ッセートにおけるサ ステナビリティへの 取り組み

自然への配慮、敬意、 創造力による未来への アプローチ

第2回サステナビリティ実
施報告書

最高経営責任者から のご挨拶

オルネッライアでは、何年も前からサステナビリティに取り組み、2021年に認証を取得しました。本報告書は、持続可能なワイン造りを目指す当社の成果を具体的に分析するものです。

サステナビリティ認証から2年目を迎え、オルネッライアとマッセートでは、ブドウの栽培技術の改良、自然環境への負荷の低減、電気や水の使用量を削減する技術、高度な機械、システムの導入により、持続可能な環境を保護することに重点を置いています。オルネッライアとマッセートによるサステナビリティへの取り組みは非常に範囲が広く、ボトルの梱包方式から、サステナビリティへの移行計画、将来の地域社会像まで及びます。

当社の基本理念は、サステナビリティへ投資することで地域社会に新たな価値を創造し、ワイン生産の枠を越えて外に広がる社会的、文化的な活動を支援することにより、地域社会で生活し、働くすべての人々の生活の質を向上させることです。認証から2年目を迎え、長年蓄積してきた経験や知識を活用し、全員で情報を共有して方針を決定し、仕事と生活の両面からのサステナビリティをより具体的に進めていきます。

オルネッライアとマッセートの両方でサステナビリティの成果を出すことができ、最高経営責任者として非常に誇らしく思います。これも、オルネッライアとマッセートの未来のため、日々尽力を惜しまない多くの人々のおかげです。これからも、豊かな未来へ繋がるアイデアやプロジェクトが絶えることなく生まれると強く確信しています。



ジョヴァンニ・ゲッデス、
最高経営責任者、オルネッライア、マッセート





内容

1 活動の基本方針 P. 06

4 2025年までの達成目標の再評価 P. 24

2 2022年度の主な成果 P. 10

5 オルネッライア・マッセート サステナビリティ委員会 P. 26

3 サステナビリティの基本方針 P. 12

活動の基本方針

1

オルネッライアとマッセートでは、経済的な発展、地域社会の福祉、環境保護に積極的に貢献するため、以下の方針でサステナビリティ活動を推進しています。



1. 環境の保護と保全

可能な限り環境に影響を与えないよう、技術的、組織的に最善の解決策を模索し、生物的な多様性を実現する上で適切な農法を導入し、ブドウ畑の生態系を改善します。同時に、廃棄物の削減と再利用を進めます。



2. 企業倫理と責任

経済的、社会的、環境的な要素を伴う意思決定や監査プロセスにおいて、倫理基準を遵守します。



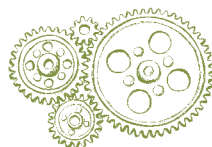
3. 持続可能な成長

付加価値の高いプロジェクトを推進し、当社の生産プロセスにより、幸福度が高く精神的にも豊かな地域やコミュニティになるよう邁進します。



4. 協調的な経済活動

パートナーと協調し、経済が循環しながら発展するモデルを取り入れることで、前述の基本方針を順守し、毎年、前年度よりも高い成果を出すよう努力します。



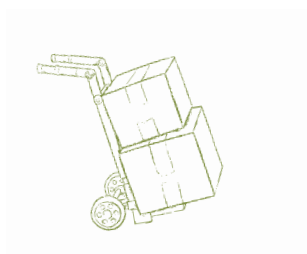
5. 優位性と革新性

生産の全工程を通じて、要求基準を満たし、資源を最も効率的に利用するための節減プロセスを推進するため、利用可能で、最も適切な技術的ソリューションを探求します。



6. 人材の確保と登用

現在、および、将来の目標を達成できる優れたチームを組織するため、安全基準を守り、多様性、人権、専門能力開発を尊重しながら、健康を最優先に考え、好奇心を刺激する活力あふれる職場を作ります。



7. サプライチェーンへの関与

サプライヤー・ネットワークがサステナブルに発展することを励行し、社会的、環境的、経済的に持続可能であることを常に心がけ、それを実証します。



8. 地域の社会的、経済的な発展

当社が事業を展開している地域が、社会的に、経済的に発展するため、雇用の創出、職業訓練、地元サプライヤーの活用、地域社会への提言を通じて、当社が事業を展開している地域の成長を目的とした事業モデルを採用します。



9. 情報共有と透明性

株主等のステーク・ホルダーとの間に、信頼感の高い持続的な関係を確立、維持し、きめが細かく正確な情報を共有し、ステーク・ホルダーが当社の事業に適切に関与できるよう、常に努力しています。

2022年度の主な成果

2

電力の使用用途の制限、および、使用量の削減

二酸化炭素排出量の削減と経費節減を同時に対策できるよう、以下のように、既存システムを最適化し、刷新しました。

- 1 屋内空調管理システム（BMS）を導入し、室温を効率よく管理しています。
- 2 オフィスの暖房用としてバイオマス・システムを導入・刷新し、効率化を図りました。
- 3 出荷前のボトルの保管倉庫にヒートポンプを1台設置し、少ないエネルギーで暖房と冷房を効率的に管理しています。
- 4 醸造工程のエリアの電球をすべてLEDに交換しました。

二酸化炭素の排出量の削減

- 5 バイオマス・システムの導入により、熱源用LPG使用量を98%削減しました。
- 6 社内移動用の電気自動車の保有台数を増やしました。
- 7 オルネッライア用の新しい専用ボトルを導入し、ガラスの重量を10トン削減しました。
- 8 紙媒体をデジタル・ツールに置き換え、紙の使用量を2.5トン削減しました。
- 9 エールフランス航空/KLMオランダ航空のSAF、および、DHLのGoGreenキャンペーンに協賛し、CO2の排出量を53トン以上削減しました。

水資源の管理

- 10 現在、ワイン1リットルあたり、6.38リットルの水を使用していますが、浸透圧の工程で生じる量を差し引いた水の使用量をモニタリングしています。

サステナビリティの基 本方針

3

3.1. 環境

進捗状況：ブドウ畑

ブドウ畑が自然環境と調和することは、ワイン生産の基本です。その結果、長年にわたり、地域やコミュニティと一体になり、独特の多様な生態系を尊重し、保全してきました。きめ細かに畑に手を入れ、オルネッライアとマッセートに特有の幅広い生物多様性を保護しています。これは、ワインの生産と自然環境の保護が調和した例です。地域に特有の自然環境を維持・保全するため、紫外線の利用、畑の病害虫を捕食する昆虫の繁殖と動態調査、異なる昆虫個体群の相互作用の分析、病害虫に対するブドウの自然抵抗力の増強など、年間を通して、画期的な農法を試行しています。病虫害発生予測モデルを応用した防疫管理システムを導入し、人体に有害な物質を長期的に使用する活性原理の量を減らして、抗病虫害対策を実施しています。



進捗状況: 電気と水の消費

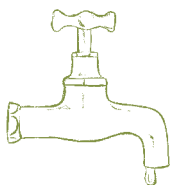
近年、気候変動が顕著になってきました。気候変動への影響を最小限にし、資源やエネルギーの消費量、CO2排出量の削減が重要な課題になっています。生産プロセス全体で、製造方式や装置を見直す必要があり、これは企業の重要な戦略要件に関係します。本サステナビリティ実施報告書では、水とエネルギーの使用に関するデータを明らかにし、目標達成のために導入した技術的ソリューションの効果を分析しました。気候変動への取り組みは、気候が、農業や農作物の供給量と品質に大きく影響することを認識する必要があり、環境問題を管理する上で、企業の選択や行動を決定する場合の中心的な要素となります。

以下、ワイン1リットルを生産するために必要な水（リットル）と電力に関するデータを示します。このデータは、生産工程の有効性と効率性を計測する上で、最も優れた指標といえます。過去2年間、オルネッライアとマッセートでは、水と電気の使用量を削減するための技術に投資し、大きな成果を遂げています。



1. 水の利用

「水資源は、節約から再利用に至るまで、ワイン生産における貴重な資産である」



施策の効果

2021年に開始した分析により、オルネッライアとマッセートにおける水資源の使用に関する課題が明かになり、使用量の節減と再利用対策が必要になりました。

データの分析により現状を俯瞰的に把握できたため、2022年、次の段階として、オルネッライアとマッセートでの各作業工程における水の使用量を調査しました。

この調査では、ワイン醸造、熟成、瓶詰め工程に分けて分析しました。醸造工程と熟成工程では、誤差は少ないと仮定し、ワイン醸造で消費した水の総量を水量計から読み、畑の単位面積あたりの使用量に換算しました。瓶詰め工程ではデジタル式水量計により、個々の作業での使用量を詳細に計測できました。

1年間のデータの分析結果

外部から醸造施設に入る水だけを考えると、浸透圧で生じた水を差し引いた消費量は、ワイン1リットルあたり6.38リットルになりました。浸透圧で生じた水は、芝生への散水など、他の工程で再利用しています。2025年までの目標は、水の消費量を20%削減し、ワイン1リットル当たり5〜6リットルにすることです。

瓶詰め工程での水の使用量の調査は単純であり、調査後の使用量の削減や継続的な監視も難しくありません。一方、醸造工程と熟成工程では、タンクや樽の洗浄で大量の水を必要とすることから、水の使用量の計測は複雑で、長い時間がかかります。目標は、当初から変わらず、工程の質を損なわずに作業を最適化し、効率化を図りながら、必要となる水の量を減らし、無駄や使いすぎを避けることにあります。

2. 電気の使用

目に見えないエネルギーの役割

近年、さまざまな形態のエネルギーが必要となっています。当社では、必要な量と使用した量を記録することで、エネルギーの効果的な使用と節減の新しい形を模索しています。

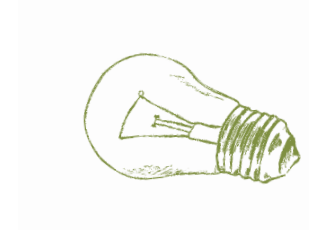
エネルギーの節減では、使用効率を上げる技術を導入し、必要量と供給量のデータを集めて管理する必要があります。

2021年の分析で明らかになった最重要課題は、新システムの導入前、年間のエネルギー使用量を大幅に削減するため、エネルギーの無駄を徹底的に管理して削減する方法を模索することでした。この課題は、2022年でも最重要課題でした。このため、2022年、年間を通じて一定の温度に保つボトル保管庫の冷暖房システム(電気による発熱器とポンプで構成)を入れ替えました。現在、冷暖房は少ないエネルギー温度制御が可能な単一のヒートポンプになりました。



3. LED電球へ交換

2022年、醸造施設と保管庫の照明をすべてLEDに交換しました。



4. エネルギー消費データ(水、照明、ガス)を1台のコンピュータで一元化

2022年末、エネルギー消費の調査が完了し、オルネッライアとマッセートに、各生産工程における水とエネルギーの使用状況をコンピュータでモニタリングできる監視システムを醸造施設内に設置しました。オフィスでのエネルギー使用量も同管理システムでチェックしています。一元的なモニタリングは2023年1月から運用しています。

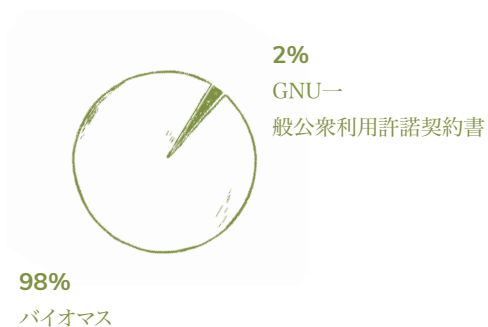
5. 廃棄物の削減と再利用

廃棄物のライフサイクルを管理することは、地球環境を保護する上で重要な課題です。当社では、廃棄物のライフサイクルを通じて、持続可能な廃棄物管理を目指しています。

廃棄物管理を改善するため、醸造施設とオフィスでは廃棄物をさらに細かく分別しており、全従業員が廃棄物分別に関する講座を受けました。



6. コンピュータ・システムの改善



水とエネルギー使用の最適化

2022年末、電気と水の使用データ量を監視・分析するコンピュータ・システムを導入しました。今後、数年間、消費量を更に細かく記録し、50以上の測定ポイント(機械、制御パネル、作業エリア、照明など)を詳細に分析することで、エネルギーと水の使用を最適化します。

新しいモニタリング・システムの導入

- 電力使用量のモニタ 2023年1月
- 水使用量のモニタ 2023年7月

ガス使用の最適化

ガス使用を最適化するため、新しくバイオマス熱発生システムを導入し、醸造施設の生産工程で使うガス(LPG)の消費量を前年度の98%以上まで削減できました。

2022年のLPGの総消費量は21立方メートル(58ユーロ)でした。ちなみに、4人家族の年間平均消費量は1000~1400立方メートルです。

年間消費量

オルネツライア、マッセート

21 sm³

4人世帯



1000 / 1400 sm³

7. サプライヤの認証取得

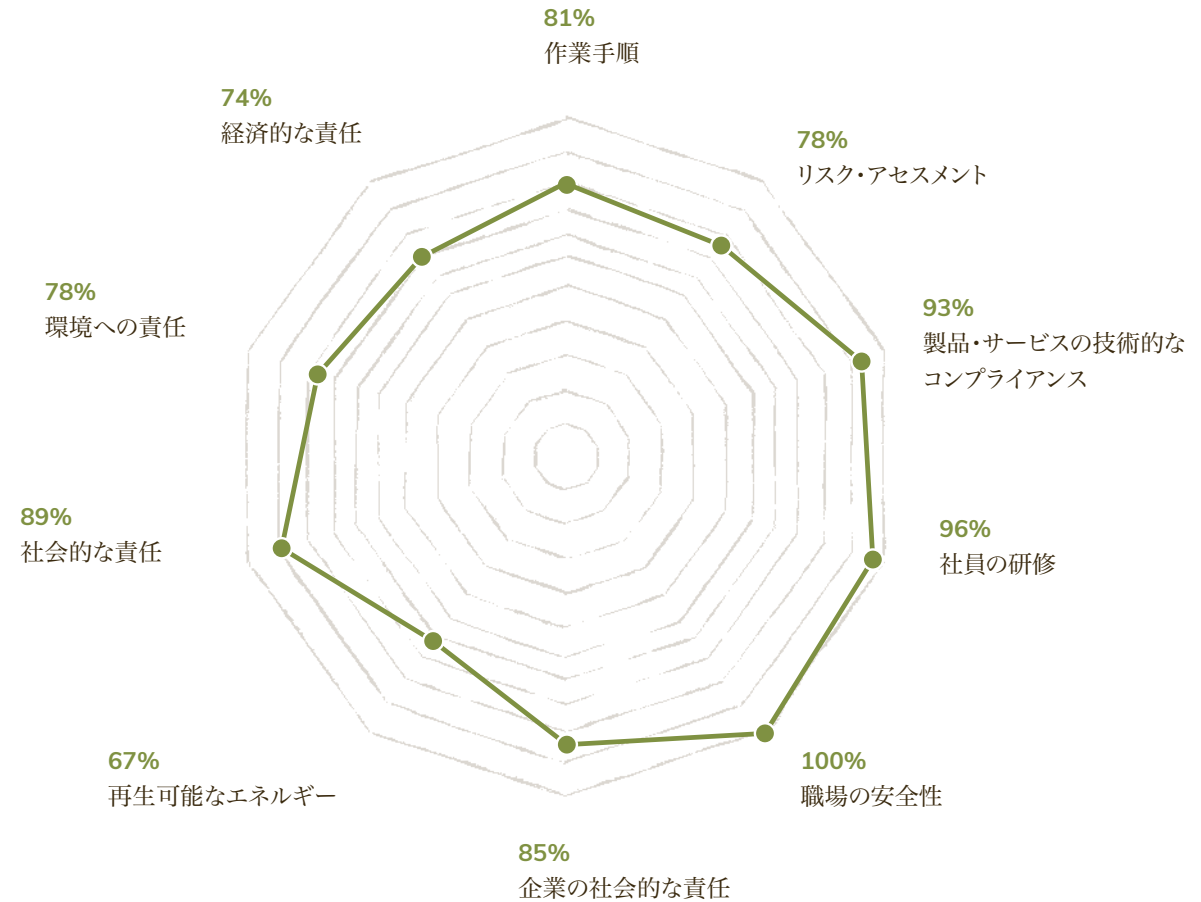
企業倫理、社会的責任、サステナブルなワイン生産は、当社の軸になる価値観です。「サプライヤの行動規則」や「サステナブルな購買方針」のような基準は、当社だけでなく、サプライヤも自然環境を正しく理解し、保護し、敬意を持つ上で、重要な指針となり、経済活動をする上での基準となります。サステナビリティに関するオルネツライアとマッセートの活動を通じて、当社が目指す価値観と基準をサプライヤと共有し、サプライヤとの間にガラス張りのシンプルで永続的な関係を確立します。

サプライヤの状態をモニタリングする利点

- 最新のデータを収集する評価システムにより、サプライチェーンのサステナビリティが向上します
- 具体的なパラメータを通じて、サプライチェーンが生産工程に与える影響を評価でき、透明性が向上します

サプライヤによるサステナビリティ評価基準の遵守

2022年、サステナブルな企業活動に向けて、どの程度、取り組みが進捗しているかをチェックし、共有するため、主要サプライヤを対象にアンケートを実施しました。アンケートには、サプライヤの社会的責任の分析も含まれています。



8. 情報の管理と問題への対応

重要項目の分析と問題の対処

作業の工程を詳細に調査・分析したことで、製造管理や品質管理の障害になっている問題点が明らかになり、生産工程の各段階を詳細にチェックできました。今回の調査で、是正が必要な箇所が明確になりました。

a) 不適合の箇所と問題の対策

本サステナビリティ実施報告書は、当社で生産したワインが高い付加価値を持ち、また、当社の外にいる顧客から高評価を受ける上で、基準となるドキュメントです。社内外で発生した問題は、「不適合」と呼び、記録に残します。それぞれの不適合に対して問題を解決し、完成品としてのワインの品質を保証するための手順を定めました。

TCA*や欠陥コルクに関するフィードバック

問題の対処

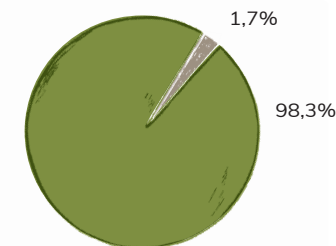
報告を受けたケースでは、可能な限り、不適合なボトルを生産した生産部門で官能試験を実施し、原因を分析して回答しました。

不適合との報告があったボトルが入手できない場合、顧客サービス部門が不適合を解消する方法を決定しました。不適合ボトルの報告の中には、場合によっては、現在の工程で使用しているコルクを別の物に換える必要がありましたが、これにより問題を解決でき、当社のワインの品質価値が向上しました。

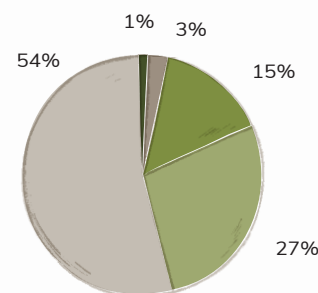
b) 苦情の処理

当年度に受けた苦情はすべて処理し、解決できました。出荷で遅延が発生したケースは全体のわずか1.7%でした。苦情の大部分は最終流通後のもので、顧客サービス部門と物流部門が対処しました。

2022年のイタリアにおける船舶運航の混乱



- 遅延が発生しない出荷
- 遅延が発生した出荷



- 決った時間内に配達できない
- 配送不能
- 注文が不適合
- 注文が不完全
- 破損

*欠陥コルクの原因となる化学物質

c) 重要分野の管理: システムの最適化、および、再投資のための内部留保の蓄積

水や電気資源の消費量を測定・監視するシステムの構築は完了しました。次に、2022年に着手した重要分野に焦点を当てます。

- **代替エネルギー** 太陽光発電システムは、当社のエネルギー供給量の約7%を占めています。2023年から、20%拡大する予定です。

d) 継続的な改善を追求し、適合義務を果たすための基準

適合基準を完全に満たすため、重要な生産工程において、ボトルの洗浄に関する問題の解決策と、梱包に関する選択肢があります。

- 洗浄に関連する問題解決策
- 梱包に関連する選択肢

使用するプラスチックの削減

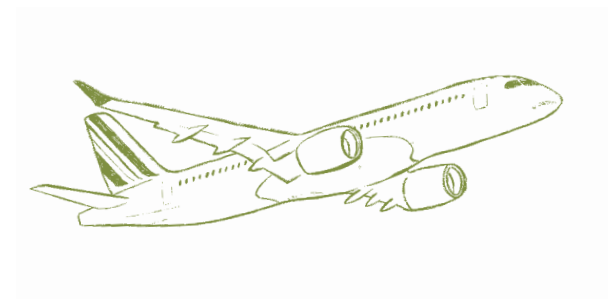
2021年度の報告書でも記載したように、ボトルを保管庫に入れる前の梱包の最終段階で、パレットを包むためにプラスチックを使用しており、その量が多いことが分かりました。2022年は、60%を再生プラスチックに置き換え、リサイクルが可能なストレッチ・ラップへ移行しました。



カーボン・フットプリントの削減キャンペーン

カーボン・フットプリント削減の具体例として、以下の2つのキャンペーンに取り組んでいます。

- エールフランス航空/KLMオランダ航空の「サステナブルな航空燃料(SAF)」プログラムに参加することで、航空機のCO2排出量削減に貢献できました。当社では、航空機利用において、53トンのCO2を削減しました。
- DHL GoGreenとのパートナーシップにより、ワインの陸上輸送におけるCO2排出量を841.17キログラム削減しました。



3.2. 社会的 な貢献

ヴェンデミア・ダルティスタ

第14回となったヴェンデミア・ダルティスタ 2019年「イル・ヴィゴレ」は成功裏に幕を閉じました。30万2,000ユーロの収益金はソロモン・R・グッゲンハイム財団の「マインズ・アイ」プログラムに全額を寄付し、視覚の不自由な人も芸術を鑑賞できるようになりました。

慈善活動

長年に渡り協力してきたさまざまな団体を引き続き支援することで、慈善活動を継続しています（2021年現在）。

会社の福利厚生

従業員に対する賞与、福利厚生を含む福利厚生を継続しています。



2025年までに達成する新5カ年投資計画

2,2mln €

2022年に承認された投資計画



+22%

2021年に承認された当初計画との比較


600.000 €

2022年の支出額

2025年までに達成する目標の再評価

4

2025年までに

1.	電気自動車、または、ハイブリッド車に転換 社内輸送用の自動車やバスの購入	 20% 達成
2.	ボトルの軽量化 100トンに到達	 82% 達成
3.	醸造施設での水使用量の削減 達成率 -20	 5% 達成
4.	照明のLED化 100%達成	 100% 達成
5.	太陽光発電の拡大 現在の3倍に到達	 実施中

オルネツライア・マツ セート サステナビリテ ィ委員会

5

サステナビリティ委員会

委員が相互に尊重し、価値観を共有し、設定した目標を達成するための組織。

本委員会は、活動目標として承認されたサステナブルな取り組みを全社的に尊重し、実施していることを確認する責務を負います。オルネッライアの全社員がサステナブルなビジョンを共有することで、各社員が責任を持って行動し、質を高めることができます。

